

がん研ボランティア 活動報告書 (2017)



がん研有明病院
CANCER INSTITUTE HOSPITAL

平成 29 年度 ボランティア活動 年間のご報告

がん研有明病院のボランティア活動にお力を貸していただき、誠にありがとうございます。

2005年に有明へ移転してから12年が経過した2017年のボランティア活動では、これまでの永年の活動が実ったと感じられる一年となりました。

これまで患者さんやご家族に様々な活動を実施して参りましたが、大塚時代から歴史が一番古い図書活動の永年の目標でもありました病棟7階・8階の大きな本棚をリニューアルすることができました。

また、がん研では顕著な功績のあった職員や部署、がん研への貢献度の高い職員や部署に「学術賞」「特別賞」「優良賞」「チーム表彰」が授与され、毎年新年祝賀式典にて表彰されておりますが、この度、初めてボランティア活動が「チーム表彰」を受賞することができました。

この表彰は部長の推薦に加え、職員のアンケートにより候補者をノミネートし、経営会議で審議の上、表彰対象者を決定して新年祝賀式典で表彰状と金一封を授与されるもので、職員からみて患者さんや関係者への対応がよく、がん研の評判を高めている、表に出にくい日常の改善活動や効率化に頑張っている、勉強熱心で周囲が頼りにしている、目立たないが、いなくてはならない存在であるなど、「よくやっている職員・部署」を推薦されるものです。こちらにボランティア活動が選ばれたことに、職員のボランティアに対する関心も深まり、がん研の一員として認めていただいたようで、大変嬉しい出来事でした。

これまで多く方のご理解とご協力をいただき、ボランティア活動を実施できたことに心より感謝いたしまして、『ボランティア活動報告書(2017)』をお届けいたします。

現在、単発のイベントや短期間の災害のボランティア等の活動は参加者も増えつつありますが、一方では病院ボランティアの活動は参加者の減少が課題の一つとなっています。病院ボランティアの多くが、5年前と比較するとボランティアの人数が減っていると言われており、がん研でも同様です。

日本病院ボランティア協会でも「病院ボランティアの活動をまずは知ってもらい、病院ボランティアのなり手を増やしていきたい」という意見が出されておりますが、がん研はがんの専門病院であることを忘れずに、人数に依る活動ではなく、限られた人数でも質の高い活動を目指して、今後もできる限りの活動を継続していきたいと考えています。

ボランティアに携わる一人ひとりの皆さまが、病院ボランティアの種を蒔いてくださいますように、どうか引き続き、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2018年8月

がん研有明病院 ボランティア支援室
柴田かおり

がん研有明病院

ボランティアの目指すもの



- ・ 入院、通院されている患者さんが院内で快適に過ごすことができるように支援します
- ・ 患者さんが安心して治療できる環境づくりの担い手となります
- ・ 患者さん、ご家族と病院や社会との間をつなぐ架け橋となります
- ・ 入院生活に季節の風をもたらしませ
- ・ 院内のサービスの向上と充実につながるよう陰ながらサポートします

がん研有明病院ボランティア支援室

がん研有明病院 ボランティアシンボルマーク



カニのハサミがボランティア(Volunteer)のVマークを象り、
2つのカニのハサミは手と手を取り合い助け合いを
イメージしたシンボルマーク

1. コンサート活動のご報告

コンサート活動では、ホスピタルコンサート、BGM タイム、ミニコンサートと、タイプの異なる3つのコンサートを開催しています。

各コンサートは開催場所やお聴きくださる方も毎回異なり、コンサートの雰囲気もそれぞれですが、患者さんやご家族に治療中でも普段と同じような生活をお過ごしいただければ…という願いを込めて、演奏者の方には聞き馴染みのある曲、季節を感じられる曲、話題の曲など、気持ち明るくなるような心温まる選曲をしていただいております。

どのコンサートも大変好評で、演奏を聴きながら涙を流して喜んでくださる方、癒されたと言ってくださる方も多いですが、音楽は人によって感じ方に違いがあり、こちらが良かれと思って選曲したプログラムでも、時には患者さんやご家族のご希望に合わない演奏をお届けすることもあり、投書箱に厳しいご意見も寄せられることもあります。すべての方に喜ばれる活動をするのは難しいですが、そのようなお声も大切にして自己満足の活動にならないように、活動を振り返ることも必要です。

おかげさまで沢山の演奏者の方から、コンサート活動への参加のお申し出をいただき、演奏者募集を一旦ストップさせていただいておりましたが、今後は募集を再開する予定でおります。活動の趣旨にご賛同いただけるアーティストの方にお越しいただけるように、ご協力をお願いして参ります。

【コンサート活動の趣旨】

当院では、がん治療を受けられる患者さんやご家族のために、少しでも心穏やかな時間をお過ごしいただけるように、プロとしてご活躍のアーティストの方にご協力をいただいて、ボランティアで演奏をしていただいております。コンサート運営は病院職員を中心に院内でエメラルドグリーンのエプロン姿で活動をしているボランティアわかばのメンバーによって運営される手作りのコンサートとなります。がん専門病院での演奏ボランティアであることをご理解いただき、ご自身のリサイタルや演奏技術を披露する場ではなく、患者さんやご家族が治療に向き合うことができるよう、心温まる演奏をしていただける方にコンサートへの出演をお願いしております。誠に恐縮ではございますが、コンサート出演にあたっての謝礼、交通費等のお支払はなく、全くのボランティアでのご協力をお願いしておりますので、何とぞご理解とご協力のほど、宜しく願い申し上げます。

【演奏者募集要項】

(演奏者の活動条件)

- ①プロ活動またはそれに準ずる音楽活動をされている方
- ②当院のボランティア活動の趣旨にご理解、ご協力をいただける方
- ③活動に支障なく心身ともに健康である方（患者さんの場合は主治医の許可等、要相談）

(提出資料)

- ①氏名・グループ名（ふりがな）
- ②プロフィール
- ③写真
- ④応募の理由
- ⑤当日の演奏プログラム（案）
- ⑥CD等の音源
- ⑦他の病院での演奏活動経験
- ⑧演奏希望日
- ⑨ご連絡先・担当者名（住所、電話番号、メールアドレス）



ホスピタルコンサート

- 開催日時：2ヶ月に1回（17:00～17:40）
- 場 所：1階ホスピタルストリート
（100周年コーナー）
- 開催回数：5回
- 対 象：院内のどなたでも

コンサート会場となるホスピタルストリートの100周年コーナーが、患者さんやご家族向けに様々なイベントやセミナーが頻りに開催されることになり、また、コンサートに対して様々なご意見が寄せられることもあったため、ホスピタルコンサートの開催は今年度から2ヶ月に一度となりました。

急遽開催できない月が重なり、今年度最初の開催が9月となりましたが、ピアノ、ヴァイオリン、ジャズ、クラシックなど5組の演奏者の皆さまに素敵な演奏を届けていただきました。入院されている患者さんはベッドや車椅子のまま聴きに来てくださったり、外来受診の患者さんもコンサートを聴いてから帰宅すると言ってくくださったりと、このコンサートを楽しみにして下さる患者さんやご家族が多いことは、コンサートを企画運営するボランティア支援室やボランティアわかばのメンバーにとって、大きな励みとなっています。

いつも陰ながらコンサートを支えてくださっている協力企業の帝都典禮様、平安祭典様のスタッフの皆さまも、患者さんやご家族の笑顔のためにと、会場を季節ごとに大きなお花で飾ってくださったり、出演される演奏者の方への花束をボランティアで用意してく下さったりと、ホスピタリティー溢れるコンサートとなっています。



◆石井 修・石井英子コンサート◆

[2017年9月25日 開催]

【出演者】石井 修さま（テノール）・石井英子さま（ピアノ）



9月のホスピタルコンサートは、日頃から演奏ボランティアとして活動していただいております、石井修さん、石井英子さんご夫妻によるテノールとピアノのコンサートを行いました。

病院長の山口先生からのご紹介でコンサートの幕が上がると、テノールの力強い歌声と、ピアノの軽やかなメロディーのハーモニーに、会場の皆さんも聴き入っていらっしゃいました。野菜の名前が登場するユニークな『苗や苗』をはじめ、「愛の歌」にふさわしい華やかなピアノが印象的な『静けさにうたう』、そして、コンサート開始前に「この曲を聴くのが楽しみ」とおっしゃる患者さんがいらして、『アヴェ マリア』などを様々な曲を演奏いただきました。

アンコールでは中島みゆきさんの『時代』を演奏していただきました。体を揺らしながら聴き入ってらっしゃる方や、感動のあまり涙を流されている方もおられ、大盛況の中コンサートは幕を閉じました。

石井修さん、石井英子さん、本当にありがとうございました。

◆女性トリオ JAZZ コンサート◆

[2017年10月27日 開催]

【出演者】青木まよこさま（ヴォーカル）・
佐藤アル美さま（ピアノ）・酒寄由香里さま（ヴァイオリン）



10月のホスピタルコンサートは、女性トリオの皆さんによるJAZZ コンサートを開催しました。ジャズのコンサートは一年ぶりの開催ということもあり、楽しみにしてくださっていた患者さんやご家族が多く、会場のお席も満席になり、立ち見をする方もいらっしゃるほどでした。

病院を代表してのご挨拶は、出演される皆さま女性ということもあり、清水副院長兼看護部長にお願いし、お三方のご紹介をさせていただきました。曲目はどなたも一度は耳にしたことのある映画音楽をジャズ風にアレンジしたもので、温かみのある懐かしさとともに、時代の中で決して衰えることのない新鮮な感動が会場を包み込みました。

コンサートの最後には、手術を無事に終わられた入院中の男性患者さんに花束プレゼンターをお願いして、出演者の皆さんに花束を手渡しさせていただきましたが、目にいっぱい涙を浮かべて喜んでくださった患者さんのお姿に、音楽の力がどれほど患者さんやご家族のお力になれるのかを感じました。素敵な演奏を届けてくださり、ありがとうございました。

◆クリスマススペシャルコンサート◆

[2017年12月21日 開催]

【出演者】千住真理子さま（ヴァイオリン）・丸山 滋さま（ピアノ）



2017年ホスピタルコンサートの最後を飾っていただいたのは、ヴァイオリニストの千住真理子さんとピアニストの丸山 滋さんによるクリスマスコンサートです。

千住さんは、消化器外科胃担当部長の比企先生と幼馴染みでいらっしゃることから、これまで3回ホスピタルコンサートにご出演いただいておりますが、2016年のクリスマスに開催したサンタクロースの病室訪問イベントの際に、「クリスマスに千住さんのヴァイオリンが聴きたい…」と、入院患者さんからの熱烈なご要望をいただきました。

そこで、千住さんにご連絡を差し上げたところ、快くお引き受けいただき、1年越しでの実現となりました。

当日は沢山の患者さんやご家族の方が列を作ってお待ちくださるほど、あっという間に満席となり立ち見でご覧いただいた方も大勢いらっしゃいました。クリスマスの雰囲気ピッタリの素敵なプログラムで、ヴァイオリンとピアノの音色に会場の皆さんも心穏やかなひとときを過ごすことができました。

千住さん、丸山さん、素敵なクリスマスコンサートを本当にありがとうございました！！

◆あさくさハッピー連コンサート◆

[2018年1月25日開催]

【出演者】鈴木美幸さま・みどりみきさま・中村紀久子さま・吉永龍生さま・
上野さゆりさま・かなりやささま・世志凡太さま（プロデューサー）



2017年最初のホスピタルコンサートは、剣劇女優の浅香光代さん振付・監修、世志凡太さんプロデュースのジャンルを問わないプロ歌手を集結させた50人のグループ“あさくさハッピー連”の有志メンバーの皆さまをお迎えして開催いたしました。

1曲目の「浅草音頭」では出演者の皆さま全員が真っ赤な法被を着て登場してくださり、会場の患者さんやご家族と一緒に振付を踊り会場が一体となって楽しむことができました。出演者の皆さまそれぞれの美しい歌声に涙を流して聞いている患者さんの姿もみられ、ホスピタルストリートが温かな空気に包まれました。

浅草大衆劇が大好きという下町出身の患者さんは大喜び、6名の出演者の皆さまと「浅香光代の6番目の亭主！」と自己紹介をしてくださった世志凡太さんの軽快な楽しい司会には会場の皆さまからも驚きの声があがり、感動の涙と笑顔のあふれる素晴らしいコンサートとなりました。

あさくさハッピー連の皆さま、ありがとうございました！

◆岩本久美&清水千裕コンサート◆

[2018年3月29日開催]

【出演者】岩本久美さま（メゾソプラノ）・清水千裕さま（ピアノ）



3月は日頃から演奏ボランティアとして活躍されているメゾソプラノの岩本久美さん、ピアニストの清水千裕さんをお招きしてホスピタルコンサートを開催いたしました。

「春の小川」やドビュッシー作曲の「アラバスク 1 番」など春の訪れや桜が舞う様子を感じる曲を演奏して頂き、桜満開のこの時期にピッタリでした。

また、「5分で分かるサウンド・オブ・ミュージック」と題して、物語を交えながら演奏して頂き、「サウンド・オブ・ミュージック」の舞台であるザルツブルクの風景が思い浮かぶようでした。

親しみのある曲から初めて聴く曲まで沢山の楽曲を用意して頂き、会場の皆さま、目を閉じて音楽を楽しまれているようでした。アンコールの「花」では会場の皆さまと合唱し、院内に春の訪れを感じさせるひと時となりました。

岩本久美さん、清水千裕さん心温まる演奏をありがとうございました。

BGM タイム

- 開催日時：火曜日（14:00～14:30）
- 場 所：1 階ホスピタルストリート
- 開催回数：23 回
- 対 象：患者さん、ご家族、面会の方

BGM タイムは演奏ボランティアとして登録しているメンバーが活動しています。季節に因んだ曲を演奏して、患者さんやご家族、お見舞いの方、そして、職員も足を止めて、演奏を聴いています。

演奏メンバーもオリジナルのプログラムを用意したり、演奏曲の説明や作曲された時代背景、作曲家の人柄などの説明も加えたりと、30 分間お楽しみいただけるように趣向を凝らしています。

ホスピタルコンサートのような大きなコンサートではありませんが、BGM 感覚で気軽に楽しむことができる BGM タイムは、演奏ボランティアと患者さんとの距離感も近く、音楽を身近に感じられる温かいひとときとなっています。



緩和ケア病棟ミニコンサート

- 開催日時：火曜日（14:45～15:15）
- 場 所：12 東緩和ケア病棟デイルーム
- 開催回数：20 回
- 対 象：緩和ケア病棟の患者さん、ご家族、面会の方

演奏ボランティアのメンバーが、BGM タイム終了後に 12 階東の緩和ケア病棟でミニコンサートを開催しています。病棟で開催する夏祭り、ハロウィン、クリスマスのイベントに合わせて、演奏ボランティアも曲を選び、衣装を身に着けて演奏するなど、一緒になって盛り上げています。緩和ケア病棟での演奏は、良い曲だと思って選んでも時にはご家族の心情を傷つけてしまうこともあり、演奏ボランティアのメンバーも選曲や音量に気を配りながら、活動しています。



《BGM タイムとミニコンサートの月別の開催回数》

開催回数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
BGMタイム	2	2	2	2	2	2	1	2	3	2	2	1	23
ミニコンサート	2	2	2	2	2	2	1	2	3	0	0	2	20

BGM タイムと演奏ボランティアとして登録しているメンバーは前年度 13 名でしたが、今年度はその半数の 6 名となり、開催できる機会が少なくなりました。2 週間に一度の開催となり、それに加えて病院の防災訓練のため、BGM タイムが開催できなかつたり、緩和ケア病棟の改修工事が入ったため、1 月から 2 月にかけてはミニコンサートが開催できないこともありましたが、有明移転の 2005 年から細々と長く続けています。

2. ボランティアわかばの活動のご報告

院内で様々な活動をしているボランティアわかばでは、名前に因んで、エメラルドグリーンのエプロン姿で活動しています。

「図書」「外来案内」「ソーイング」「折り紙」「お茶会」のグループ活動に加えて、季節に合わせたイベントの開催、入院中にお誕生日を迎えられる患者さんへの「誕生日カードづくり」のほか、ボランティア室内で細かい作業も実施しています。

今年度は30代から80代まで幅広い年代のメンバーが登録、ご自身の得意分野を活かした活動に参加しています。



登録メンバーの活動参加状況

①登録者数：46名（男性：6名／女性：40名） ※新人ボランティア4名登録

②登録者年代：平均年齢60.7歳

年代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
人数	1名	6名	13名	17名	8名	1名

③登録者住所：都内在住の方が9割

都道府県	東京都	埼玉県	神奈川県
人数	42名	2名	2名
%	91.3%	4.3%	4.3%

(都内の内訳)

※病院と同じ江東区にお住まいの方が約40%

区	数	区	人数	区	人数	区・市	人数
江東区	17名	墨田区	2名	港区	1名	杉並区	1名
大田区	5名	江戸川区	2名	品川区	1名	豊島区	1名
世田谷区	3名	渋谷区	2名	目黒区	1名	葛飾区	1名
—	—	板橋区	2名	中央区	1名	国分寺市	1名

④病院までの所要時間：陸の孤島なり得る有明ですが、活動中に大きな災害に見舞われる可能性もあります。万が一に備えて、ご自宅から病院まで各自で交通ルートを確認していただくと共に、ボランティア支援室としてもご自宅の最寄駅、所要時間、緊急連絡先をお知らせいただいています。

ボランティア活動を継続するには、ご自宅からボランティア先までの距離や所要時間、通いやすさも重要となります。

所要時間	30分以内	31~60分以内	61~100分以内	101分以上
人数	17名	20名	8名	1名

⑤当院での治療歴：**治療歴なし（28名）、治療歴あり（18名）** ※治療歴ありは健診を含む

2014年より活動要件に治療中の患者さん、ご家族のボランティア参加規程が設けられました。患者さんの場合は治療後3年経過、また、がんでご家族を看取られたご遺族の場合は3回忌を終えてから（看取ってから2年以上経過してから）の方お願いしています。

メンバーの中には、活動中にご自身が患者になること、ご家族を看取することもあります。ご自身の心と身体のバランスを保つため、そして、患者さんやご家族により良い活動を実施するためには最低でもこの位の期間が必要だと、医師や看護師、臨床心理士など専門スタッフと検討を重ねて決定した規程となりますので、ご理解をいただいた上で参加していただくようお願いしています。

⑥活動時間数：主に活動する曜日・時間帯・活動内容を決めていただいでのご参加をお願いしておりますが、曜日を固定せずに、フリーでご参加いただく方には、できるだけ空き状況が多い日程でのご参加にご協力をお願いしています。

月	活動実日数	活動延人数	活動総時間数	平均活動時間数	実活動者数	1日平均活動者数	活動率(%)
4月	20	87	310:21	3:34	34	4.35	80.95
5月	18	73	250:11	3:25	30	4.06	71.43
6月	22	112	446:17	3:59	36	5.09	78.26
7月	19	92	289:49	3:09	37	4.84	80.43
8月	16	82	290:13	3:32	36	5.13	78.26
9月	20	106	354:28	3:20	40	5.30	86.96
10月	21	99	366:48	3:42	35	4.71	76.09
11月	20	106	428:37	4:02	37	5.30	80.43
12月	18	100	416:25	4:09	34	5.56	73.91
1月	17	73	247:39	3:23	32	4.29	74.42
2月	19	84	306:41	3:39	31	4.42	72.09
3月	21	110	400:17	3:38	36	5.24	83.72
計/平均	231	1,124	4,753:33	3:37	34.8	4.86	78.08

※活動率は月1回以上の参加で計算

- ☞ 参加条件（月2回以上の参加）：半数以上の方がクリア
- ☞ 参加日数：40日以上（8名）、30日以上（8名）-----★最高72日
- ☞ 参加時間数：300時間以上（1名）、200時間以上（1名）-----★最高352時間
平均68時間

参加時に記入していただく活動記録 IN/OUT の時間より計算しておりますが、ご自宅で活動準備や作業をしてくださる方もいらっしゃるため、数字では表せない部分の活動も多くあります。多くの時間を活動に割いていただき、本当にありがとうございます。

新人ボランティア募集・説明会・面談

4月10日～5月15日までの約1ヶ月間、新人ボランティア募集を行いました。がん研 Web サイトや日本財団、東京ボランティア市民活動センター等、各ボランティア募集サイトへの掲載、江東区ボランティアセンターにもご協力いただいて募集しましたが、応募者数は12名、説明会への参加者数は9名と少ない人数でした。

5月17日に説明会を開催し、その後、応募してきたくださった方お一人ずつ個別面談を実施させていただきました。応募条件に合わない方からの応募や説明会での話を聞いて辞退された方もいらっしゃいましたが、新たに4名の志し高い方をお迎えすることができました。



【ボランティアわかば募集要項】

がんと闘う患者さんやご家族の笑顔のために、ぜひ皆さんのお力を貸してください！！
近隣にお住まいで積極的に行動できる方、患者さんに寄り添える思いやりの心を持った方を病院ボランティアとしてお迎えしたいと思っております。皆さんの温かいお気持ちを心よりお待ちしております。

(活動条件)

- ① 18歳以上の方（高校生不可）、活動開始時の年齢が65歳位までの方
- ② 当院のボランティア活動の趣旨にご理解、ご協力をいただける方
- ③ 原則、週1回（最低月2回以上）、1日2時間以上の活動を6ヶ月以上継続できる方
- ④ 体力に自信があり、2時間の立ち作業ができる方
- ⑤ 活動に支障なく心身ともに健康である方
⇒治療中の患者さんのご参加は、ご遠慮いただいております。（治療後3年以上経過、要相談）
⇒2年以内にご家族を看取られた方のご参加は、ご遠慮いただいております。
- ⑥ ボランティア保険に自己負担でご加入いただける方
- ⑦ 下記日程の説明会、面談、研修会、トレーニングに参加できる方

新人ボランティアオリエンテーション・ボランティア研修会

6月8日、午前は新人ボランティアを対象にしたオリエンテーションを行い、午後からは登録メンバー全員を対象にしたボランティア研修会を開催しました。

研修会では、病院ボランティアとして抑えておきたい知識を各部署の専門スタッフが講師となって指導しますので、ボランティアメンバーの共通認識となるように、多くのメンバーに参加していただくよう声をかけ、20名近いメンバーが参加してくれました。

研修会の冒頭で、清水副院長兼看護部長より病院を代表しての挨拶と、日頃の活動に対してのメッセージをいただきました。ボランティア活動がいかに患者さんやご家族の心に癒しを与えているか、また職員にとっても学ぶべき姿があるという言葉に、新人ボランティアはこれからの活動に期待をふくらませ、先輩ボランティアはこれまでの活動を振り返る良い機会となりました。



図書（月～金曜日：午前/病棟図書・午後/外来図書）

図書活動にとっては大きな変化がありました。まず4月には外来図書ワゴンの設置数を10台から6台に減らしました。色々な場所にワゴンがあれば患者さんが手に取りやすいのでは…という思いで、これまで外来の外待合のベンチ横や休憩コーナーの脇など様々な場所に置いておりましたが、逆に図書が10か所のワゴンにそれぞれ散らばってしまい、患者さんが各ワゴンを歩いて探し回ることになっているようで、かえって大変ではないかという意見も出てきたため、設置場所を地下、1階、2階にそれぞれまとめて図書コーナーを作りました。



また、病棟図書では11月に病棟7階・8階デイルームの本棚を新規購入し、リニューアルしました。有明に移転した2005年に、大塚時代に使われていた事務用の書架をボランティア図書用の本棚として再利用し、図書の貸出手続きを廃止して終日開放し、患者さんやご家族にお好きなときにお好きなだけ読んでいただけるように、7階・8階のデイルームに大きな図書コーナーを作りました。7階・8階のデイルームに設置した本棚は、シリーズもののマンガ本や人気の単行本を多数配置しておりますが、もともと事務用の書架であったため、本棚としての機能性に欠けており、本のサイズに合わせて手作りで棚を作ったり、奥行きを狭めたりするなど工夫して参りました。これまで度々新しい本棚を購入したい、という意見がボランティアメンバーからあがっていましたが、ボランティア活動で年間を使用できる予算は非常に限られており、新棟建築や新しい機器購入でボランティア活動への予算を増やしていただくことも難しく、古い書架を何度も手直しして有明移転より12年間に亘って使用していました。

今回の新しい本棚購入に至るまで、ボランティアわかばでは、患者さんやご家族のための活動はもちろんですが、活動を通じて財政面でもがん研を応援したいという気持ちから、2009年から毎年ボランティアチャリティーSHOPを開催して、ボランティアのメンバーの手作り品を販売し、がん研究のため、手術室増設、新棟建設のためにと、その売上金を全額がん研に寄付させていただいておりますが、有明での活動開始10周年記念の会を開催した2015年に病院長の山口先生より『この寄付金をボランティア活動に役立ててください』とさせていただいたことがきっかけとなり、2015年～2016年に寄付した合計100万円と、ボランティア活動を陰ながら見守ってくださる「がん研有明友の会」さまのご支援もいただいて、病棟7階・8階デイルームの本棚を新たに購入することができました。

本棚購入の際は、病棟デイルームの景観を損ねないように木目調の素材を選び、図書館に勤務経験のあるボランティアのメンバーのアドバイスを受けながら、患者さん、特に術後の方や車椅子の方が図書を手に取りやすいか、また、ボランティアのメンバーにとっても整理整頓しやすい本棚であるかを検討し、購買施設部のご協力もいただいて、ようやく新しい本棚を設置することができました。新しい本棚にはせつかなのできれいな図書を配置したいと状態の良いものを選び、古くても人気のある図書には紙やすりをかけて汚れや黄ばみを落とすなど、本棚だけでなく配置する図書の内容も一新いたしましたので、今後も沢山の方にご利用いただきたいと思います。そして、この図書コーナーが少しでも心なごむひとときのお役に立てるように…と願っております。



最後にこの場をお借りして、本棚購入にあたってご支援いただきました有明友の会の皆さま、ボランティア図書へ沢山の寄贈をしてくださった患者さんやご家族の皆さま、先生方や看護師、研究所の皆さんに心より御礼を申し上げます。



外来案内（月～金曜日：午前・午後）

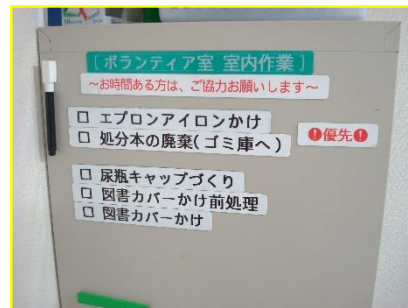
※医事課と協力しての活動

沢山の患者さんが来院され、混雑することも多く、様々なご質問を受ける活動場所ですが、10名のメンバーが笑顔で対応しています。少しでも患者さんにわかりやすいようにと、メンバーのアイディアで、精算機前の並び方を示す表示マークを貼り付けてもらい、患者さんにお並びいただく際にお声がけをするなど、混乱をさけられるように工夫しています。忙しさに追われる医事課スタッフに代わって、患者さんの視線を大切にすボランティアの心を病院としても大切にしていきたいです。



室内作業（月～金曜日：午前・午後）

室内作業では、寄贈本の受付、仕分けや図書のカバーかけ、尿瓶キャップの作製、活動で使う道具の整理や棚の整理整頓、活動時にメンバーが着用するエプロンのアイロンかけなど、細々とした作業を実施しています。この他にも、通常の活動が円滑に行えるように、ボランティア室内の整備、お掃除、休憩時のお茶の用意やカップの茶渋とりなど、さりげなく動いてくれるメンバーは心強い存在です。月・水・金曜日に参加のメンバーが少ないですが、少ない参加人数のときほど、目に見えない活動でもしっかり活動してくれるメンバーの存在を他の参加メンバーにもご理解いただき、ご協力をいただけると嬉しいです。



お茶会（火曜日：午後）

※緩和ケア病棟・栄養管理部と協力しての活動

ミニコンサートと合わせて開催のお茶会は、3名のメンバーが担当しています。演奏ボランティアとのスケジュールの兼ね合いや病棟の改修工事も重なり、開催できる日数に限りがありましたが、患者さんにご家族がくつろげる時間を提供できるように、病棟スタッフと協力しながらコーヒー・紅茶・日本茶をサービスしています。

病棟看護師が企画をする夏祭り、ハロウィン、クリスマスでは、イベントに合わせたお菓子を用意して、スタッフと一緒に盛り上げています。



《お茶会開催記録》

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
月間開催数	2	2	2	2	2	2	1	2	2	0	0	2	19
わかば参加人数	4	5	4	5	4	4	2	6	6	0	0	6	46
ミニコンサート開催数	2	1	2	1	1	2	1	2	2	0	0	2	16
患者さん人数	22	16	14	10	15	24	8	17	22	0	0	14	162
ご家族・面会者人数	22	25	19	20	21	13	6	16	35	0	0	18	195

ソーイング（水曜日：午前・午後）

入院中の患者さんが不快な思いをされないように尿パックカバーやドレーンポシエット、特注品や修理等 32 点作製しました。感染対策の観点から布製品の使用について賛否両論の意見があり、今後の活動継続については看護部とも調整する必要が出てきました。



《払出状況》

病棟	尿瓶キャップ	尿パックカバー	ドレーンポシエット	特注品・修理	内容
看護部				1	足用ポンプ修理
外来				11	タオルケット修理
5東	980		5		
5西	50				
6東	36	10	5		
6西	30				
7東	50				
7西	80				
8東	100				
8西	148				
10東	90				
10西	40				
11東	90				
11西	80				
12東	40				
12西	45				
計	1,859	10	10	12	合計：1,891点
		32			

折り紙を楽しむ会（木曜日：午後）

患者さんやご家族が参加され、大変好評です。年間で46回開催し、285名もの方にご参加いただきました。担当メンバーは週替わりで様々な作品を考えて自宅で試作し、材料もお一人ずつ配布しやすいように1セットごとに準備して、患者さんやご家族のお越しを8階病棟デイルームでお待ちしています。病棟での活動になりますが、外来患者さん対象にも、診察や検査の待ち時間に「折り紙を楽しむ会」を開催してみても良いのでは?!という意見も出ています。



コンサートサポート

ホスピタルコンサートや演奏ボランティアによる BGM タイム、ミニコンサートがスムーズに行えるようにボランティアわかばのメンバーがコンサートのサポートをおこなっています。診察時間中のため、館内放送ができず、お座席の用意もできない BGM タイムでは、外来受診の患者さんやご家族が大勢いらっしゃる中をピアノの周りにうまく誘導したり、当日のプログラムを配布したりと、安全面にも注意をしながら、安心して演奏を楽しんでいただける環境を整えています。



お誕生日カードづくり (毎月 1 回)

※栄養管理部と協力しての活動

お誕生日を迎える患者さんのために手作りのお誕生日カードをプレゼントするこの活動も 2 年目に入りました。とても好評で前年からデザインをリニューアルし、ハートの折り紙を貼り付けましたが、このハートを折るのにボランティアのメンバーのお子さんやご家族にもご協力いただきました。毎月 50 枚、年間 600 枚作成もカードを作成しますが、せっかくのお誕生日を病院で過ごされる患者さんが少しでも笑顔になっていただけるように…と願って 1 枚ずつ丁寧に作成しています。



行事食カードづくり (七夕・お正月)

※栄養管理部と協力しての活動

お誕生日カードづくりに加えて栄養管理部との協力で新しい活動がスタートしました。栄養管理部で実施している行事食メニューに合わせて、その行事に因んだカードを手作りしています。

第一弾は「七夕カード」、七夕の由来を記載したカードに手作りの短冊を添えたもので、七夕行事食が出されるのに合わせてお食事のトレイと一緒にのせて患者さんにお配りしました。お食事が出ない患者さんには病棟の看護師の協力も得て、皆さんに行き渡るように準備しました。



第二弾は「お正月カード」、お正月に入院される患者さんはいつもの半数ほど、と言っても 300 名近い方が病院で過ごされます。一つ一つ、栄養士が手作りしたおせち料理が紅白の折詰で元日の朝食に出されますが、折詰に合わせて祝い鶴の折り紙で作成したカードを作成しました。

お正月は活動がお休みですので、当日の様子を直接拝見することはできませんが、後日おせち料理とカードの写真を見て、豪華なお膳にメンバーも感動していました。

気持ちよく新しい年を迎えていただけたらと願うばかりです。



イベント

季節に合わせて様々なイベントを開催しました。患者さんやご家族にとってはもちろんですが、活動するメンバーや職員にとっても、季節のイベントは心温まる活動になっています。イベントの開催にあたっては安全面の配慮を忘れずに、ボランティアのメンバーの手だけでは不安な部分は、施設管理課など専門部署にも関わっていただきます。病院全体としてイベントを盛り上げていけるように、今後は職員への参加も積極的に呼び掛けていきたいと考えています。

【端午の節句：4/24～5/8】



1階のホスピタルストリートに五月人形を展示して、連休中お楽しみいただきました。

【桃の節句：2/21～3/4】



患者さんからいただいた立派な七段飾り、今年も皆さんにご覧いただきました。

【七夕笹の設置：6/30～7/10】



大きな笹をホスピタルストリートに展示して短冊に願いごとを書いていただきました。

【七夕短冊お焚き上げ：7/25】



過去最高の2,299枚もの短冊が結ばれ、願いが叶うようにお焚き上げ奉納しました。

【クリスマスカードづくり：9月～12月】



10年間続けている手作りのXmasカード、手が込んだ素敵なカードが仕上がりました。

【サンタクロース訪問：12/22】



Xmasツリーの着ぐるみが初登場！病室だけでなく、外来患者さんにもご挨拶しました。

3. 外部団体のボランティア活動受け入れのご報告

がん研のボランティア活動では、外部団体、企業や学校からのボランティア活動の参加希望があった場合、患者さんやご家族のニーズがあるかどうか、病院側の受け入れ体制が整っているかを考慮して、患者サービス委員会での承認を得て、受け入れをしています。今年度は4社の企業の皆さまにご協力をいただきました。心温まる活動をしていただき、各社の社員の皆さまに大変感謝しております。

【帝都典礼株式会社さま】

七夕の笹をご提供いただいて、七夕コーナーの設置と終了後の短冊の回収にもご協力いただきました。奇数月に開催しているホスピタルコンサートでは会場を飾るお花や出演者への花束もご提供くださるなど、永年お力を貸していただいています。



【株式会社日本サービスセンター平安祭典さま】

生のモミの木を北海道から空輸で取り寄せてくださり、大きなクリスマスツリーを飾付していただいています。偶数月にはホスピタルコンサートでのお花の提供や1階エレベーターホールには素敵なお花を活けていただくなど、毎年ご協力いただいています。



【株式会社スヴェンソンさま】

がん研が大塚にあった頃から、美容室の定休日を利用して入院患者さんへカットボランティアを実施して下さっています。患者さんが入院される日数が短くなり、利用される患者さんが減少してきてはおりますが、患者さんにも大変好評です。



【株式会社日本テレビアートさま】

今回初めてとなりましたが、華やかなクリスマスの飾付をホスピタルストリートと緩和ケア病棟にいただきました。豪華な飾付のおかげで、院内がとても温かな雰囲気になりました。病棟中庭ではイルミネーションの点灯式も行われました。



4. ボランティア支援室兼務の新入職員研修のご報告

ボランティア支援室に、毎年総合職の新入職員が兼務として配属されるようになって、5期目となりました。ボランティア活動を理解していただけるように、人事部に依頼して入職式では新人職員全員にボランティア活動の紹介資料を配布しておりますが、兼務として配属された新入職員には、新人ボランティアのメンバーと同じように研修を受けていただき、コーディネーターが不在時のボランティア室の対応方法もトレーニングして、ボランティア活動に関わる時間を設けています。

ボランティアの経験がない職員も多いため、ボランティアの心得や病院ボランティアとして、最低限抑えておきたい知識の習得のほか、車椅子講習や図書活動、イベントなど実際のボランティア活動にも参加しています。ボランティアのメンバーと一緒に様々な活動を経験することで、ボランティアの輪を職員にも広げていきたいと思っております。



5. 交流会・懇親会のご報告

日頃の活動では、ボランティアコーディネーター以外の病院スタッフと交流する機会も少なく、また、ボランティア活動に参加する曜日や内容によってはメンバー同士がなかなか顔を合わせる機会がない、ということもあり、2011年より季節のイベントに合わせて交流会や懇親会を毎年開催しています。

特に新人ボランティアのメンバーは、早くがん研のボランティア活動に馴染んでいただけるように…と歓迎の意味も込めて、オリエンテーションと研修会の終了後に交流会にご参加いただいております。

ボランティア同志の横の繋がりを深めること、また、病院スタッフにもボランティアのメンバーがどのような思いで活動に参加しているか、など意見交換をできる場でもあり、ボランティア支援室の室長、奥村先生をはじめ、兼務の職員も参加して、病院として日頃の活動への感謝の気持ちをお伝えしています。

開催日	内容	場所
6/8(木)	新人ボランティア交流会	セミナー室 (病院内)
7/26(水)	暑気払い	門前茶屋 (門前仲町)
12/22(金)	クリスマス会&納会	ボランティア室 (病院内)
12/22(金)	忘年会	ブリーズ オブ ベイ (国際展示場)



(交流会)



(暑気払い)



(クリスマス会&納会)



(忘年会)

6. 活動費、募金・寄付のご報告

①ボランティア活動費（年間：700,000円）

コンサート、ボランティアわかば、外部団体の受け入れを限られた予算で運営し、活動別で下記の支出となりましたので、ご報告いたします。

区分	活動別	予算	支出	差額	備考	
前年度繰越額	—	-7,163			前年度予算	
コンサート	ホスピタルコンサート BGM・ミニコンサート	70,000	17,421	52,579	演奏者CD、写真用紙、POP材料、お茶菓子等	
外部団体受け入れ	カットボランティア等	5,000	18,462	-13,462	お茶菓子等	
わかば	図書	100,000	201,439	-101,439	カバーかけ用フィルムルックス、外来図書ワゴン車輪交換、病棟本棚入れ替え、欠巻本等(※1)	
	ソーイング	20,000	3,561	16,439	生地	
	折り紙会	7,000	7,948	-948	折り紙材料	
	外来案内(医事部サポート)	3,000	0	3,000	掃除用具(※1)	
	お茶会(緩和ケア病棟サポート)	50,000	36,286	13,714	コーヒー・紅茶・お茶・コンディメント、お菓子代(※1)	
	カードづくり(栄養管理部サポート)	25,000	19,553	5,447	お誕生日カードづくり	
	イベント	七夕	5,000	5,502	-502	七夕短冊材料、お焚き上げ初穂料
		Xmasカードづくり	30,000	33,448	-3,448	Xmasカード材料
		チャリティーSHOP	30,000	18,794	11,206	SHOP材料
		サンタクローズ病室訪問	75,000	67,311	7,689	入院患者さんへのXmasプレゼント、ラッピング材料費
ボランティア活動全般	会議費	120,000	68,463	51,537	ボランティア交流会・懇親会	
	雑費・消耗品費	150,000	196,409	-46,409	記念品代不足分補填、文房具、洗剤等の消耗品(※1)	
合計		¥692,837	¥694,597	-1,760	次年度予算より差引	

⇒ブックトラック(図書用ワゴン)の車輪破損のため、車輪交換にかかる費用が超過し、次年度の予算より差し引かれる予定です。

⇒ボランティアチャリティーSHOPの開催は見送りましたが、次回に備えての材料購入のため、支出があります。

②ボランティアわかば募金（募金額：90,926円）

2018年3月末時点でのボランティア室でお預かりしている募金額です。ブックオフの古本の買取金やボランティアのメンバーからの有志による募金の総額です。10万円を超えたら寄付金として募金課に寄付し、がん治療を受けられる患者さんのため、ボランティア活動で有効に使わせていただきます。

③募金箱設置&募金活動PR（募金額：1,640円）

2015年よりボランティア室にも募金課のがん研究・医療推進募金箱を設置して、募金にも協力しています。新人ボランティアの募集の際や外部団体のボランティア受け入れの際にも、募金課からのご支援のお願いや募金課からの情報を伝えています。

また、個人的に募金や寄付をしてくださるボランティアメンバーもいます。活動参加にあたって病院からは食費や交通費など一切出ない、全くのボランティアとなりますが、時間や労力だけでなく小銭をさりげなく募金箱に入れてくださる気持ちに感謝です。



④ブックオフへの図書買取り金額（冊数：2,237冊、金額：104,429円）

大変有難いことに多数の寄贈本をいただくようになり、本棚やキャパシティーをオーバーしたため、患者サービス委員会で了解を得て、寄贈本をブックオフへ買取りを依頼しています。買取り金は、全額「ボランティアわかば募金」に加え、金額がまとまった時点でがん研へ寄付しています。ボランティア活動で有効に使えるようにして、図書カバーかけで使用しているフィルムルックスの購入費用や本棚の購入費用に充てています。

＜参考＞フィルムルックス価格（定価）大サイズ：約¥10,000 / 小サイズ：約¥8,000
2017年購入分（大サイズ：5本、小サイズ：10本）

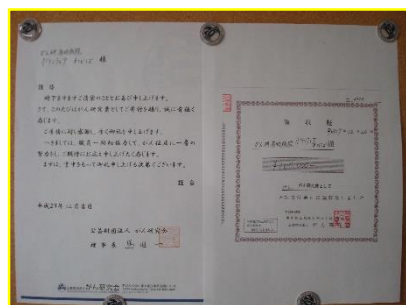
No	日付	箱数	書籍		コミック		CD、DVD		その他		合計		値段がつかなかった数
			冊数	金額	冊数	金額	枚数	金額	冊数	金額	冊数	金額	
1	4月27日	3箱	107	4,567	27	240					134	4,807	101
2	5月30日	5箱	101	5,783	30	700					131	6,483	188
3	6月20日	2箱	37	2,132	43	2,484					80	4,616	68
4	7月4日	2箱	67	3,760	4	42					71	3,802	61
5	7月28日	4箱	132	3,721	10	435					142	4,156	135
6	8月8日	3箱	86	4,467	4	120					90	4,587	171
7	8月21日	3箱	138	6,031	1	100					139	6,131	42
8	8月30日	3箱	100	3,525	26	375					126	3,900	73
9	10月17日	4箱	84	5,040	17	197					101	5,237	177
10	11月10日	2箱	67	5,612	1	50					68	5,662	48
11	12月6日	4箱	137	5,681	18	837					155	6,518	101
12	12月15日	10箱	419	22,228	102	452	1	100			522	22,780	380
13	1月18日	2箱	21	1,086	27	331					48	1,417	107
14	2月6日	3箱	66	5,935	38	2,032					104	7,967	62
15	2月28日	3箱	108	5,398	12	346					120	5,744	71
16	3月13日	3箱	113	5,333	12	388					125	5,721	138
17	3月22日	2箱	63	4,171	18	730					81	4,901	57
合計											2,237	104,429	1,980

⑤寄付金（金額：100,000円）

図書の買取金だけで10万円を超え、募金課に寄付しました。**（これまでの寄付総額：4,055,200円）**

⑥寄付金贈呈式

12月22日(金)に日頃から図書の活動で活躍されているボランティアわかばの羽場孝好さんより、副院長の松本先生へ寄付金の贈呈式をさせていただきました。毎年恒例の『ボランティアチャリティーSHOP』の開催を一旦休止いたしましたので、寄贈された本を下取りしていただくなどコツコツと貯め、今回は10万円のみ寄付となりましたが、2009年より毎年寄付をさせていただき、今回で総額400万円を超える寄付額となりました。後日、新しく就任された馬田理事長からお礼状も届き、理事長から『ボランティアの皆さんから温かいご寄付に感謝します』というメッセージが届けられましたので、ボランティア室の掲示板に貼り付けて、ボランティアの皆さんにもご紹介しました。



7. チーム表彰受賞のご報告

平成 30 年 1 月 4 日の新年祝賀式において、ボランティア活動に対して『チーム表彰』を受賞いたしました。新年祝賀式は年始早々に行われ、ボランティア活動の冬休み期間中ということもあり、ボランティアメンバーの方にはご参加いただけなかったため、当日はコーディネーターの柴田が授与式に出席して、馬田理事長より賞状と副賞の 20 万円を受け取らせていただきました。

【受賞理由】 季節のイベントや日常の活動を通し、患者さんやご家族の心を豊かにすることで病院運営に貢献したため。



この度の受賞を記念して、日頃からボランティア活動にご参加いただいているボランティアわかば、演奏ボランティアにご登録のメンバーの方に副賞の 20 万円で記念品を贈呈することとなり、ボランティアのメンバーのご希望を伺うと、「ボランティア室の備品の購入費に充てる」、「患者さんやご家族のために役立ててください」と大変有難いご意見をいただきました。ボランティア精神にあふれる皆さんと一緒に活動できることは、コーディネーターの私としても非常に大きな喜びでした。記念品はチーム表彰の意図を組み、『“感謝”の焼き印が入った烏骨鶏のかすていらとお赤飯の詰め合わせ』とさせていただきます。

また、前ボランティア支援室長で現在は経営本部長の榎山常務理事のご配慮により、ボランティアのメンバーをお迎えしての贈呈式を実施することとなりました。山口病院長、清水副院長兼看護部長をはじめ、ボランティア支援室長の奥村呼吸器センター長、兼務の若手職員 4 名とボランティアメンバーの皆さんにご出席いただき、3 月 26 日（月）に贈呈式を行いました。山口病院長よりお一人ずつ記念品を手渡していただき、出席した皆さんから一言ずつメッセージも寄せていただきました。

有明での活動スタートから 12 年経ち、決して目立つ活動ではありませんが、縁の下の力持ちとして陰ながら活動し続けてきたボランティア活動が認められ、病院として感謝の気持ちをお伝えできる良い機会となりました。今後さらに上を目指して、患者さんやご家族に寄り添った活動ができるように、努めていきたいと思っております。

これまでご協力いただきました数多くのボランティアの皆さまに、この場をお借りして、心より御礼申し上げます。



8. 番外編～東京マラソンボランティアに参加～



火曜日の活動にお越しいただいているボランティアわかばの北嶋慶子さん、齋藤幸枝さん、清水玲子さんが、2月25日に行われた東京マラソンのボランティアに参加されました。門前仲町でコース案内の活動をされたお三方、がん研でのボランティア活動の枠を越えて活動される姿は、コーディネーターにとっても非常に嬉しいことでした。

数年前、ボランティア支援室で職員の有志を募って、東京マラソンのボランティアに参加しようと計画しておりましたが、応募から3日間で1万人の定員を超えてあっという間に募集終了となり参加できませんでしたが、現在は抽選になったとのこと、東京マラソンのコースもがん研周辺を走るコースではことはなくなってしまいました。また応募してみようと考えています。

9. ボランティア活動に寄せられたご意見

患者さんやご家族から、ボランティア活動に対して、院内の投書箱やボランティア室宛に沢山のご意見や感謝のお声をお寄せいただきました。新しくスタートした活動へ早速嬉しいお言葉をお寄せいただいた他、治療中でお辛い思いをされている患者さんから思いもよらないような励ましのお言葉をいただきました。すべての患者さんやご家族にご満足いただける活動を実施することは、とても難しいことですが、感謝の言葉に甘んじることなく、患者さんやご家族の率直なご意見にも耳を傾けて、ボランティア活動が自己満足で終わることのないように、『感謝と反省の心』をもって、今後の活動にも臨んで参ります。



【図書活動について】

▣充実したボランティア図書には、非常にお世話になりました。自宅にありました本をわずかではございますが、お送りいたしますのでお役立てください。今後のご活躍をお祈りしております。

▣ボランティアさん、ありがとうございます！！2週間の入院で自分が持ってきた文庫は1冊だけでしたので、懐かしいマンガを沢山読みました。ボランティア図書は読んだらアルコール消毒をしてくれているとのこと、返却BOXに返すことになっていますが、理解していない患者が多いです。特殊なルールなので、看護師さんによるデイルームの説明のときも、もっときちんと口頭で説明したり、注意書きを大きい字で書く書棚に張ったほうが良いと思います。

▣年に1回の本の差し入れです。ほぼ新品ですので、どうぞお納めください。手術をしてから十数年、大塚でも有明でも通院でお世話になっています。本が楽しみで、皆さまの活動は本当に感謝にたえません。ありがとうございます。今回もお礼状などのお気遣いは無用です。急に冷え込んで参りましたので、皆さまご自愛の上、さらなるご活躍をお祈り申し上げます。

【外来案内の活動について】

回いつも明るい笑顔で迎えてくださって、ありがとうございました。

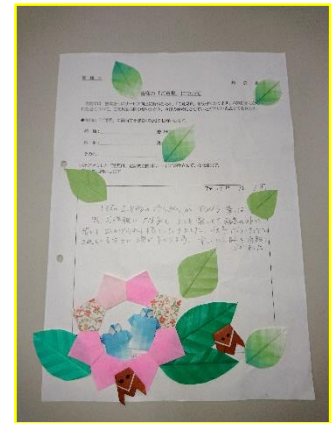
【ソーイングの活動について】

回尿管やドレーンが入っていた時、ためておく袋のところにかわいらしいカバーがかかっていました。自分の身体から管が出ているのはとても怖いものですが、カバーがついていることで排泄されたものが直接見えることがなく、またカバーもとてもかわいいもので安心と癒しをもらいました。ありがとうございました。入院中はこういう小さな心遣いが本当に嬉しかったです。

【折り紙の活動について】

回1枚の正方形の折り紙が花びら、葉っぱ、虫、お洋服に大変身、とても楽しくて病室の外に歩いて出かけられるようになりました。永年ボランティアをされている方々に頭が下がります。楽しいひと時をありがとうございました。

「ご意見」の用紙に、素敵な折り紙作品を貼り付けて、投書箱にメッセージをお寄せいただきました！



【カードづくりの活動について】

回院長先生からのクリスマスカード、ありがとうございました。先生が幼少時代にお父様と一緒に見られた美しい景色が目浮かびます。先生のお人柄まで伝わります。スタッフの方からのメッセージも嬉しかったです。皆さまに大変感謝しております。

回入院当初より、お医者様、看護師、その他のスタッフの皆さまの笑顔と細やかな心遣いに本当に安心して過ごさせていただいています。

特に、今日の元日のお食事には本当にびっくりしました。紅白の水引に結ばれた“祝い折詰”。

まさにお正月のおせち、お箸も寿の祝箸です。

また、ボランティアわかばの皆さまからの折鶴の札！！まさか病院でのお正月がこんなに嬉しいものになるとは思ってもいませんでした。美味しさもですが、その紅白の装いにも、心に大きな力を戴きました。皆さまの優しいお心遣い、本当にありがとうございます。デイルームでお食事を一緒にする他の方々も“感激”でした。

【ボランティア活動全体について】

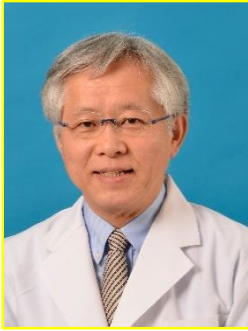
回お盆に来院しました。「何かが違う…」と思いましたが、「ボランティアわかば」の皆さまが夏期休暇を取られているとのことでした。いつも当たり前のように接していましたが、ボランティアの皆さまの笑顔や挨拶に励まされていることに改めて気が付きました。

先日、初めて図書を寄贈させていただきましたが、「ご意見」（投書箱に寄せられるご意見）の中に“図書の要望”もあり、本のコーナーが患者さんに親しまれていることを実感しました。この管理もボランティアの皆さまがされているのかと思うと、とても有難く思います。

休暇はゆっくり休んでいただき、次回来院の際には、元気な笑顔を見せてください。今後も宜しくお願いいたします。

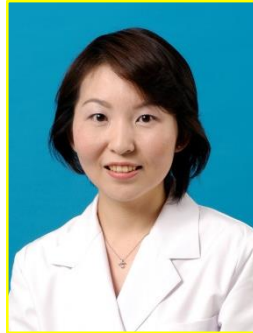
ボランティア支援室の職員紹介

【室長】



(呼吸器センター長
/奥村 栄)

【係長】



(ボランティアコーディネーター
/柴田かおり)

【兼務2年目】



(給与厚生課/藤村洋平)
2016年入職

【兼務新入職員】



(医事課/花輪雪乃)
2017年入職



(購買課/室井拓也)
2017年入職



(医事課/山口 恵)
2017年入職



(企画課/山崎雄治)
2017年入職

一年間、ありがとうございました！！



